

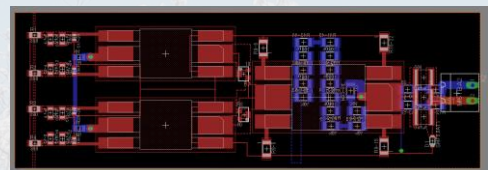
業務依頼のご案内

総合技術支援センターでは、大学内の教育・研究に関する加工依頼や分析依頼等の技術支援、IT関連業務等、理工学研究科内に限らず全学的な見地から必要な技術支援を行っております。

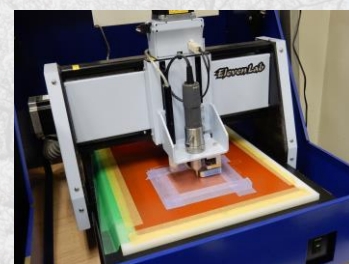
技術的な支援が欲しいけれど、技術分野や支援内容が総合技術支援センターで対応可能かどうか判らない場合は、まずはご相談ください。

「業務依頼申請書」の様式は本センターウェブサイトからダウンロードできます。

製作例



電気回路パターン図



基板加工機



オリジナル記念メダル

業務依頼の例

- ・実験装置用部品の作製
- ・測定用試料台の作製
- ・電気回路の設計・作製
- ・学内向けSDSシート作成
- ・実験用ガラス器具の作製
- ・サイエンススクール用実験部品の作製
- ・学内HP作成支援

お問合せ先

まずはお気軽にご連絡を！

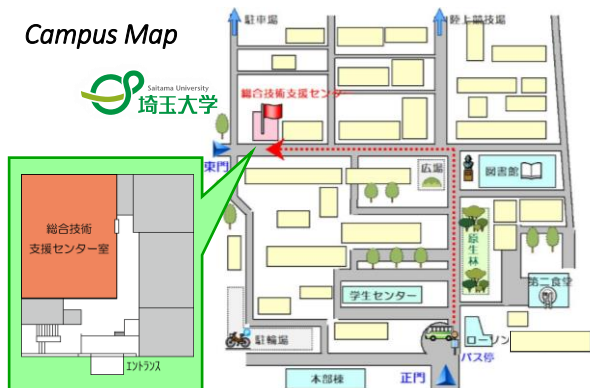
窓口 9:00～17:00
電話 内線 4215
外線 048-714-2041
メール office@tsd.saitama-u.ac.jp



安全ガイダンスを
依頼したい

子供向けイベントに
協力してほしい

装置の部品を
作ってほしい



総合技術支援センター事務室

情報メディア基盤センター・科学分析支援センター棟1F
※劇毒物受入窓口もこちらになります

国立大学法人 埼玉大学
研究機構 総合技術支援センター

さいたま市桜区下大久保255
情報メディア基盤センター・
科学分析支援センター棟 1 階

HP : <https://www.tsd.saitama-u.ac.jp>
TEL : 048-714-2041 (内線4215)



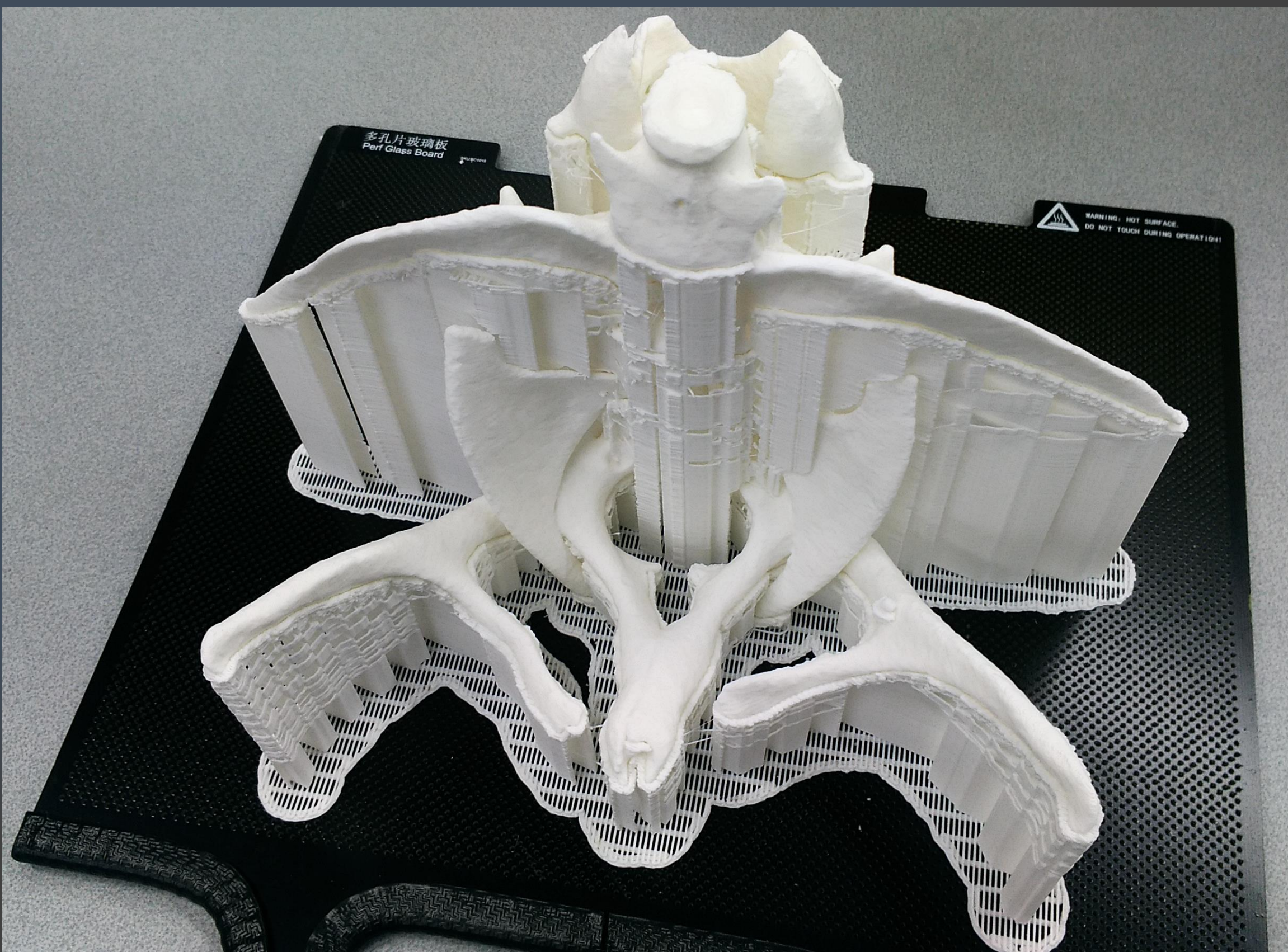
令和4年 発行



写真：3D-Designプロジェクトにおけるゼブラフィッシュの椎骨モデルの製作事例



総合技術支援センター



センター メッセージ

埼玉大学 研究機構 総合技術支援センター長
大学院理工学研究科 環境科学・社会基盤部門
教授 奥井 義昭



センター長
奥井 義昭

総合総合技術支援センターでは埼玉大学の教育・研究活動に対して、様々な専門的および技術的なサポートを行っています。教育・研究に必要な機械器具や電子回路の設計と試作、化学実験用ガラス器具の作製や作製技術の講習、3Dプリンタによるモデル作製や、それらの相談等を受け付けています。さらに、情報メディア基盤センターのサポートや大学のネットワークの保守、広報のためのホームページ作成と運営、教員データベースの保守と運営等IT関係の支援業務も行っています。これ以外にも、毒劇物の登録などの安全管理業務や、科学分析支援センターの分析装置の管理・運用等、専門性が高く技術的にも難しい業務を担当しており、活動は大学内の多種多様な分野に及んでいます。

また、学外に向けて大学内で得られた知識や技術を利用して地域貢献活動を実施しています。たとえば、県内の高校を対象とした実験用ガラス器具作製の講習会や、理化学教育の支援、小学生を対象とした「ものづくり教室等」を開催しています。

教育・研究に関することで技術支援が必要な場合は、遠慮なくお問合せください。意外と身近に高い技術を持ったプロがいることに驚くかと思います。

今後とも、皆様の支援と協力を賜りますようお願いいたします。



総括技術長
山崎 次男

組織図

埼玉大学

研究機構

総合技術支援センター

- ・センター長 1名
- ・総括技術長 1名
- ・技術長 3名
- ・機械建設系職員 11名
- ・電気電子情報系職員 7(1)名
- ・物質・生命科学系職員 10(3)名
- ・事務補佐員 (2)名

※括弧内は非常勤職員数(外数)

沿革



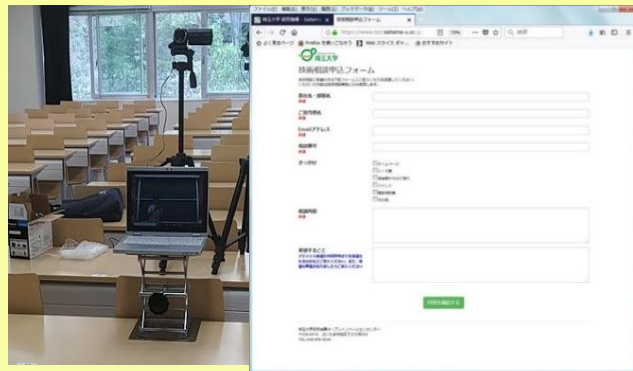
センター施設紹介



全学広報支援

全学広報支援プロジェクトは、大学からの情報発信が効率的かつ効果的に行われることを目的とし、技術的支援を通して全学的な広報活動の活性化を推進しています。

Webサイトの構築や保守運用、セキュリティ対応などお困りのことがありましたら、お気軽にお問い合わせください。

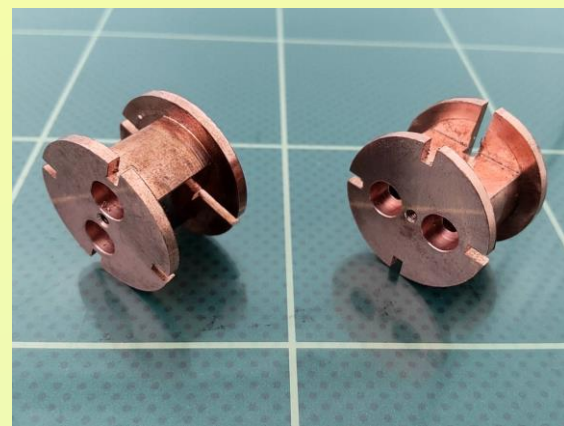


全学広報支援プロジェクトによる成果

実習工場試作業務

当プロジェクトでは、工学部実習工場において学内各施設（事務室、センター、研究室等）における研究や実験、またはイベント等に必要な装置および部品などの「試作依頼加工」業務を行っています。

また、加工に関する技術的な相談、装置や機器の修理などについても常時受け付けていますので、お気軽にご連絡ください。



PMMS 圧カセル接続アダプタ

安全管理

安全管理プロジェクトでは、教員や事務職員と連携して、埼玉大学の教育・研究の現場に即した安全管理活動を支援しています。主な活動は、薬品管理システムの管理運用支援（毒劇物一括登録支援を含む）、学生実験の安全教育、ヒヤリハット事例の収集と公開、「化学物質の安全管理かわら版」の定期発行などです。また、学内の安全管理に役立てるために学外の研究会等へ参加し、情報収集や他大学・研究機関との意見交換に努めています。



学生実験の安全教育

科学分析支援センター支援

科学分析支援センターは、科学教育と研究を支援するため様々なサービスを行っています。

- 科学分析支援センターの提供するサービス
- 大型分析機器の維持管理、利用講習、依頼分析測定
 - 液体窒素の供給
 - 動物飼育室、アイソトープ実験施設の維持管理
 - 実験廃液の回収
 - 学内排水の分析、さいたま市への報告
 - 薬品管理システムの技術的サポート



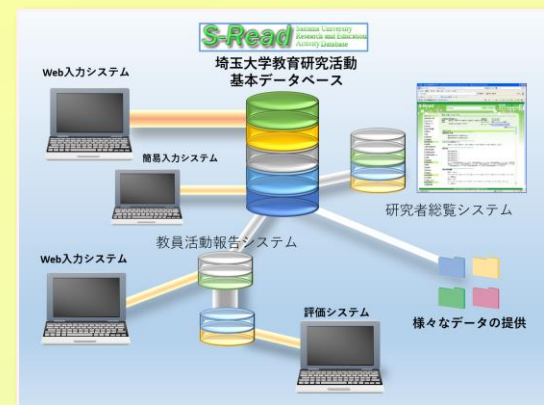
分析機器の利用講習会

総合技術支援センターでは2つのプロジェクトで科学分析支援センターを支援しています。

- 科学分析機器管理支援プロジェクト
- 大型分析機器の維持管理支援
 - 大型分析機器の利用講習、トラブルへの対応
 - 大型分析機器による依頼分析測定（学内・学外）
- 学内排水分析支援プロジェクト
- 最終放流口の排水分析（毎日）
 - 各建物の排水分析（異常検出時）



更新された、有機微量元素分析装置での分析の風景

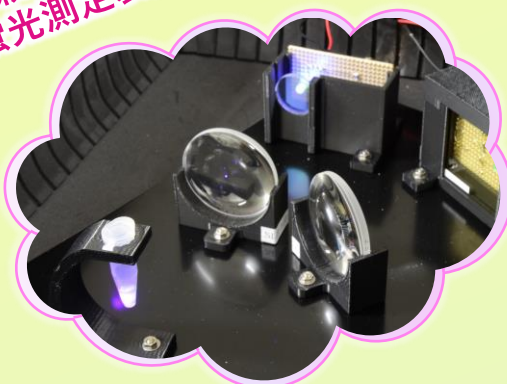


埼玉大学教育研究基本データベース

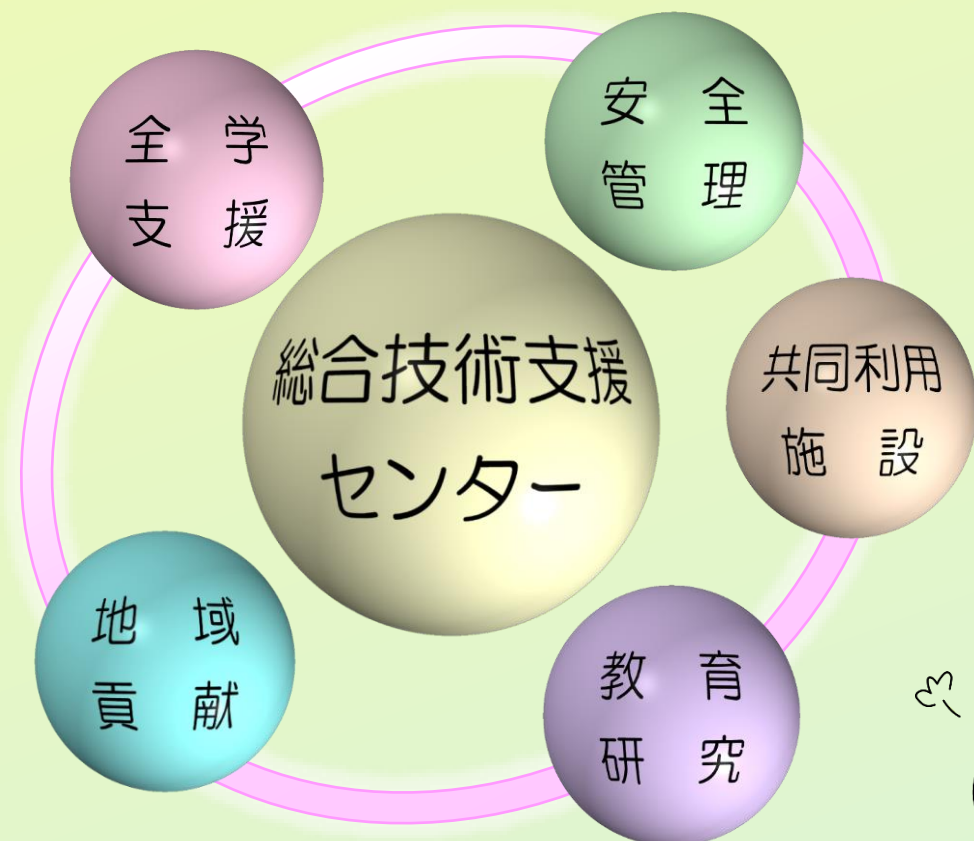
教員データベース

現在稼働中の埼玉大学教育研究活動基本データベース (S-Read) は、学内で分散管理されている様々なデータベースを一元化し、利用及び管理しやすいデータベースに当センターでリニューアルしたものです。このシステムは教員の入力作業の負担を軽減することにより、登録データ数の拡充をはかります。

依頼製作★
蛍光測定装置の試作



出張！
ガラス細工講習会



お問い合わせ先
総合技術支援センター

まずはお気軽にご相談を！

窓口 9:00～17:00
電話 内線:4215
外線:048-714-2041
メール office@tsd.saitama-u.ac.jp



夏休み♪
ものづくり体験教室



3D-Design

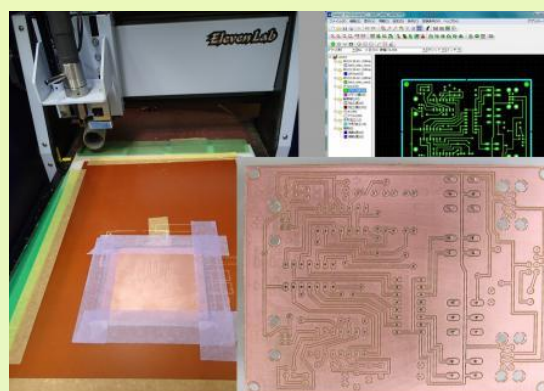
当プロジェクトでは、全学における教育・研究及び地域貢献活動を支援することを目的として、3D-CADソフトを用いたモデル設計及び3Dプリンタによる造形サービスを提供しています。製作支援では、5台の3Dプリンタを活用し、依頼者のニーズや予算に合わせた最適な提案と造形サービスを行っています。また、これまでに培ってきた技術をもとに、3Dに関する技術相談やプレゼンテーション用画像等の制作もお受けしております。



信号検出力パー

電気工作ショップ

電気・電子工作の技術を通して、大学全体の教育・研究活動を支援することを目的としています。これまでに教育・研究用実験装置の製作やパソコンと連動する自動計測制御装置の製作等を行ってきています。その為、電気工作ショップでは基板加工機を所有し様々な電子回路用基板を作製しています。



基板加工機による電子回路基板の設計・製作

ガラス細工技術支援

ガラス細工技術をいかして学内の教育・研究活動へのサポートや、地域貢献を目的として様々な活動を行っています。教育・研究支援では各種実験用ガラス器具や真空ラインの作製・修理、また学生実験・実習においてガラス細工講習を実施しています。地域貢献では埼玉県内の高等学校教員および生徒を対象とした「ガラス細工講習会」を開催しています。



高等学校教員への講習会

ものづくり教室

コロナ禍の現在、活動を行っていませんが、小学生を対象とした『夏休みものづくり教室』や、さいたま市内の児童センターに出向いて行う『出張ものづくり教室』を夏期に開催しています。

また、オープンラボなどの学内イベントや市内で行われる地域のイベントに参加するなど、地域貢献に取り組んでいます。



ものづくり体験教室の様子

教育・研究技術支援（理工学研究科）

総合技術支援センターでは、大学院理工学研究、理学部4学科、工学部5学科において、学部学生の教育プログラムである実験・実習教育支援、および卒業研究、修士、博士学生の研究活動に対して、機械建設系、電気電子情報系、物質・生命科学系の3つの系による技術レベル向上体制の強化を進めながら専門的で高度な技術指導を実施しています。

研究分野では、研究室等からの依頼による研究用試料の作製、分析・測定、実験装置の設計・製作、機器のメンテナンス、研究動向の調査、論文等に利用する図表作成、およびポスター作成等の支援を行っています。また、教員と連携して研究活動を行いながら科学研究費等の外部資金を獲得しています。



情報メディア端末室